2026年11月27日

各　位

会　　社　　名　三菱倉庫株式会社
代　表　者　名　代表取締役 社長　斉藤　秀親
（コード：９３０１、東証プライム）
問　合　せ　先　広報・ＩＲ部長　猪俣　祐加子
（TEL　０３－３２７８－６６５２）

株式会社阪急阪神エクスプレスの株式取得（連結子会社化）に関する補足説明について

当社は、2026年10月30日付「株式会社阪急阪神エクスプレスの株式取得（連結子会社化）に関するお知らせ」にて公表いたしました同社の株式取得（以下「本件」といいます。）について、本件に関する財務面を中心とした補足情報を取りまとめましたので、お知らせいたします。

本件につきましては、同日公表した適時開示資料および補足説明資料において、株式取得の目的、取得価額、対象会社の概要、本件の戦略的意義等についてご説明してまいりました。

今般、株主・投資家の皆様の本件に対する理解を一層深めていただく観点から、取得価額に関する考え方、投資採算性、今後のM&Aの考え方等について、現時点で開示可能な情報を別紙のとおり補足してご説明することといたしました。

当社は、本件を中長期的な企業価値向上に向けた重要な成長投資と位置付けております。今後、PMI（買収後統合）を着実に推進し、早期のシナジー創出および収益貢献の実現を図るとともに、本件の進捗および投資効果について、適時・適切な情報開示に努めてまいります。

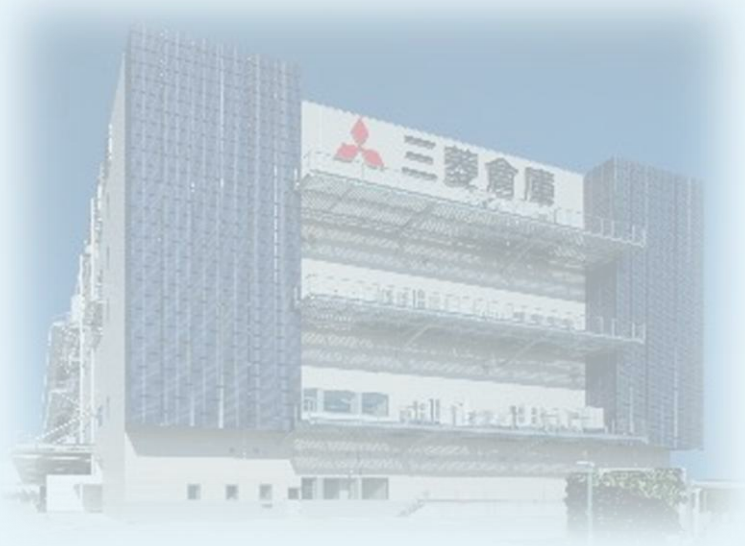
詳細につきましては、別紙「阪急阪神エクスプレスの株式取得に関する財務面の補足説明」をご参照ください。

以　上

阪急阪神エクスプレス
株式取得に関する財務面の補足説明

三菱倉庫
いつもを支える。いつかに挑む。
Supporting Today, Innovating Tomorrow.

HANKYU HANSHIN EXPRESS





2026年11月27日
証券コード　9301
三菱倉庫株式会社

サマリー

三菱倉庫

- 取得価格の考え方、投資採算および財務規律を明確化
  戦略的意義については、2026年10月30日付「グローバルロジスティクス強化に向けた戦略的M&A」を参照

取得決定時のEV／EBITDA倍率	EPSへの寄与（支払利息考慮前）	EPSへの寄与（支払利息考慮後）	
18.4倍	2029年度（のれん償却後）	2033年度（のれん償却後）	ROIC＞WACC

1 取得価格	第三者算定を踏まえ、取締役会で4回の審議を経て決定 コストシナジーと国際ネットワークの希少性に見合う水準と判断
2 業績回復とシナジー	対象会社単独の業績回復と、買収で初めて生じるシナジーを区別 投資採算の検証ではコストシナジーを基本とし、売上シナジーは更なる上振れ余地として評価
3 財務規律と資本配分	財務健全性に配慮したうえで、政策保有株式、不動産ファンドの活用を含めて柔軟に対応する 株主還元方針は維持 本件のPMIを最優先とし、当面、単独でのM&Aは行わない

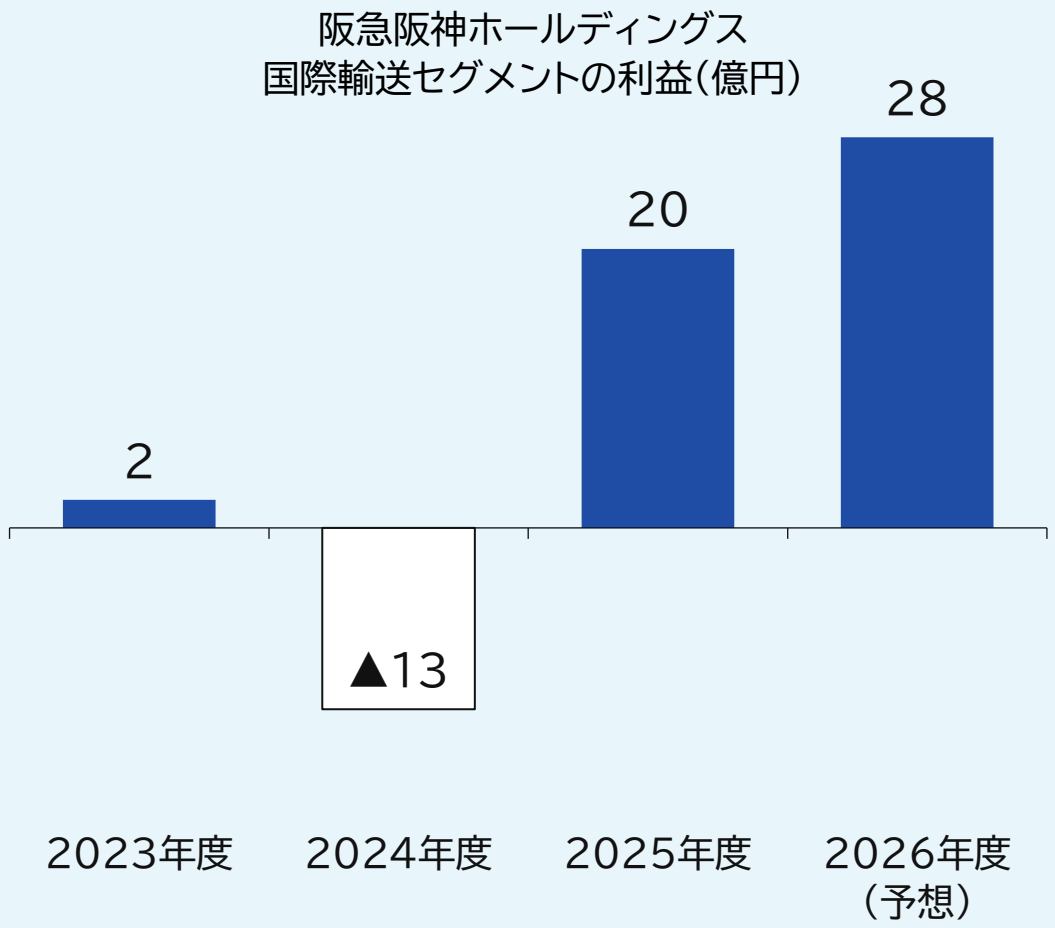
注：本資料の財務情報（EV/EBITDA倍率、EPSへのプラス寄与に要する期間を含む）は、既に開示された情報を除き、当社の推計に基づく

Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

対象会社の業績と収益力の見方

三菱倉庫

- 対象会社の収益力は、2025年度に回復し、2026年度以降もさらに向上



（億円）	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度（予想）
国際輸送セグメント 営業収益	1,003	1,047	1,065	1,183
国際輸送セグメント 営業利益	2	▲13	20	28

- 阪急阪神エクスプレスは連結財務諸表を作成しておらず、収益の多くを海外子会社が計上するため、国際輸送セグメントを参考指標として使用
- 2024年度は新基幹システム導入時のコストや人件費増加により営業利益が減少。2025年度は主にシステム稼働後のコスト減、取引の採算性向上により業績が回復。2026年度以降もさらなる収益力向上を図る

出所：2026年10月30日付適時開示（阪急阪神ホールディングス公表資料の国際輸送セグメント）
注：国際輸送セグメント23社（阪急阪神エクスプレスおよび連結子会社22社）

Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

取得価格の考え方

三菱倉庫

- 第三者算定と取締役会の審議を経て、EV/EBITDA18.4倍での株式取得を決定

第三者算定	常務会 リスクレビュー会議	取締役会	決定
DCF法・類似取引比較法等による算定	事業計画、シナジー、ダウンサイドを含む各種リスクを検証	社外取締役を含め4回の審議	取得価額1,201億円

取得決定時のEV/EBITDA倍率

18.4倍

倍率を妥当と判断した理由

事業環境	航空貨物の好調な事業環境を考慮して、EBITDAの上積みを期待（EV/EBITDA16倍も期待できる）
希少性	国際ネットワークと高付加価値貨物の取扱いを可能とする事業基盤を一体で取得できる機会は限られる
補完性	当社の倉庫・輸配送などと組み合わせ、10年先を見据えた事業拡大の基盤となる

Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

取得価額の算定基礎

三菱倉庫

- 取得価額1,201億円にネットキャッシュを考慮したEV/EBITDAは18.4倍に相当

株式取得決定時の財務情報

取得価額（株式価値）	1,201億円	
ネットキャッシュ（取得対象36社合計）	179億円	＊
企業価値（EV）	1,022億円	＊
EBITDA（取得対象36社合計）	55.4億円	＊
EV/EBITDA	18.4倍	＊

- 航空貨物の好調な事業環境を考慮して、EBITDAの上積みを期待（EV/EBITDA16倍も期待できる）

純資産（取得対象36社合計）	約450億円	＊

- のれん・無形固定資産はPPA（取得原価の配分）により確定

＊　ネットキャッシュ、EV、EBITDA、純資産（取得対象36社合計）は、本資料にて初開示（当社の推計に基づく）

注：取得価額1,201億円は、当社による株式取得前に阪急阪神エクスプレスが取得する阪急阪神プロパティーズシンガポール（純資産約100億円）を含み、
株式取得決定時は、阪急阪神プロパティーズシンガポールの純資産約100億円はネットキャッシュに計上
当社による取得対象36社：阪急阪神エクスプレス、連結子会社22社、阪急阪神プロパティーズシンガポールおよび非連結子会社12社

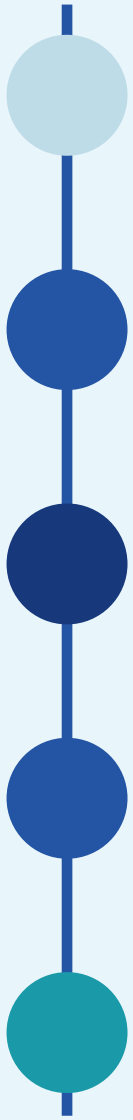
Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

投資採算の見通し

三菱倉庫

- 対象会社損益は2029年度、取得関連借入の支払利息を含むEPS影響は2033年度にプラスへ
（のれん償却費負担を含む）

株式取得完了／100日プラン開始	2026年度 第4四半期
EPSにプラス寄与 （取得関連借入の支払利息を除く）	2029年度
経営計画[2025-2030]最終年度	2030年度
EPSにプラス寄与 （取得関連借入の支払利息を含む）	2033年度
ROIC＞WACC	



Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

グループ全体のプロジェクトとしてシナジー創出を推進（再掲）

三菱倉庫

●物流全体の利益改善プロジェクトと連動させながら阪急阪神エクスプレスと当社グループのシナジーを創出する

ステアリングコミッティ（社長主導の経営者層）

KPI・目標値承認・実績確認　　課題解決策の承認・指導　　リソース配分・コンフリクト調整

変革推進室（担当役員・部長クラス）

目標設定と優先順位付け　　施策設計支援　　進捗管理・梃入れ　　追加施策の検討

営業ワーキンググループ　KPI案：クロスセル件数、新規顧客獲得数等

調達ワーキンググループ　KPI案：調達金額改善率、内製化切替数、外注費削減額等

オペレーションワーキンググループ　KPI案：ひとりあたり利益等

拠点ワーキンググループ　KPI案：管理コスト削減額等

コーポレートファンクションワーキンググループ:　組織・制度・運用の最適化

PMI推進室
（当社と阪急阪神エクスプレス　経営企画部）

PMI計画実行推進

ワーキンググループ横断の支援・調整

戦略・人事等の社外専門家にも
支援を求める

国際輸送　倉庫　港運　国内外子会社

三菱倉庫グループ

阪急阪神エクスプレスグループ

Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

今後のM&Aの考え方

三菱倉庫

1. **財務規律**　本件のPMIを最優先とし、当面、当社単独でのM&Aは行わない
2. 過去の経験（Cavalier、ITL）を活かした当社対応方針

Cavalier Logistics（米国）

- 2023年10月連結子会社化
- 外部専門家の知見も活用し、取得金額の妥当性も含めて検証の上、機関決定
- 米国政権の各種政策による事業環境の変化
- 大型案件獲得のための先行投資負担
- PMI：事業部主導になり、全社的連携が不足

ITL Corporation（ベトナム）

- 2023年4月（持分法適用会社化）
- 外部専門家の知見も活用し、取得金額の妥当性も含めて検証の上、機関決定
- ベトナムの景気減速、投資等の許認可の遅れ
- 経営への関与や、投資後の収益性向上に向けた施策の実行に一定の制約

当社対応方針

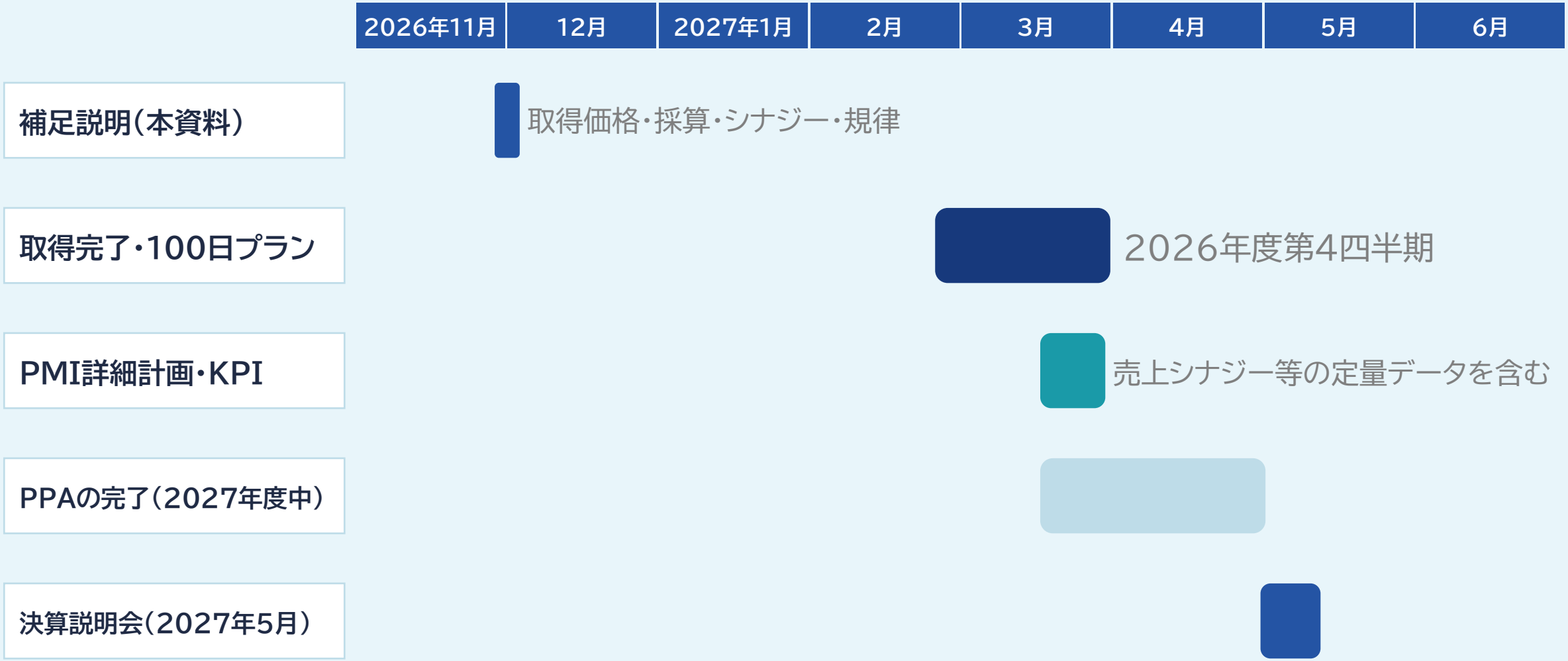
- M&A専門人材獲得
- DD：経営企画部門主導のもと、事業部門、財務部門、リスク管理部門が事業機会とリスクを分析
- PMI：外部専門家の知見を活用し、社長主導の管理体制を構築、Day1からシナジー創出を推進
- PMIの進捗状況は、各種施策とKPIを適時適切に開示

Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

今後の情報開示のスケジュール

三菱倉庫

- 未開示の情報は、今後の株式取得手続、PMIの進捗に合わせて適時適切に開示



注：取得完了の時期、PPA完了の時期は予定

Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

今後の成長ストーリー（再掲）

三菱倉庫

- 阪急阪神エクスプレスとの統合を起点にグローバルサプライチェーンマネジメント企業への進化を加速



Step1
基盤確立フェーズ

取得完了後～
- 顧客情報の一元化
- 調達力強化による競争力向上
- 業務効率化の徹底、拠点最適化によるコストシナジー創出
- 拠点配置の最適化

目指す姿

シナジーの早期創出



Step2
シナジー加速フェーズ

- クロスセルの徹底
- フォワーディング＋倉庫＋輸配送の一貫提案
- 両社組織の効果的な統合

目指す姿

本件単体でEPSにプラス寄与



Step3
成長フェーズ

2030年度（経営計画最終年度）
- 海外ネットワークの最適化
- 重点分野の高付加価値化
- コスト＋売上シナジーの拡大

目指す姿

資本効率を伴う成長軌道を確立



Step4
物流プラットフォーム化フェーズ

10年後を見据えて
- データ活用によるサービス拡大・品質向上
- 国内外ネットワークを差別化と利益の源泉に

目指す姿

顧客サプライチェーン全体を担うプラットフォーマーへ

Copyright © Mitsubishi Logistics Corporation All Rights Reserved.

三菱倉庫

いつもを支える。いつかに挑む。

Supporting Today, Innovating Tomorrow.

当資料に記載されている推計値ならびに過去または現在の事実以外に関する計画、見通し、戦略等の将来情報は、当資料の公表日現在において入手可能な情報および合理的と判断する一定の前提に基づくものであり、潜在的リスクや不確定要素を含んでいます。実際の数値や業績等は、今後の経済情勢・社会情勢、株式取得後の精査その他様々な要因により、これらと異なる可能性があります。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。